

2022 年のビワマス資源の年齢・体長組成

大前信輔

1. 目的

琵琶湖におけるビワマスの資源構造モニタリングを目的として、2022 年の漁獲魚と回帰親魚の年齢と体長の組成を調査した。

2. 方法

ビワマスの主要漁期(6~9月)に、刺網および引縄釣りの漁獲魚の被鱗体長(以下、体長)の測定調査を行った。一部の標本については採鱗による年齢査定を行った。また、漁法別採捕量は琵琶湖海区漁業調整委員会事務局の調査によった。漁法別採捕尾数による重みづけを行ったうえで、これらのデータから、2022 年漁獲魚の年齢・体長組成を推定した。

産卵期(10~11月)には増殖事業の採卵を目的として投網、エリおよびヤナで採捕された回帰親魚の一部について、漁獲魚と同様に体長の測定と一部標本の鱗による年齢査定を行った。

3. 結果

表1 2022年漁獲魚の年齢組成と年齢別平均体長

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	全平均
年齢組成(%)	13.72	53.23	27.03	4.57	1.45	2.27歳
体長(cm)	30.2	36.5	42.5	47.4	61.8	38.1cm

2022 年の漁獲魚(引縄釣りを含む)は、平均年齢が 2.27 歳、平均体長が 38.1cm であった(表 1)。この結果は全長 30 cm 以下の漁獲が禁止となった 2017 年から 2021 年までの平均年齢(2.35 歳)と平均体長(38.8 cm)に対して同程度であった。

2022 年の年齢組成は 2 歳魚と 3 歳魚が中心となっており、この傾向は 2017 年から 2021 年までの漁獲魚の平均年齢組成(表 2)と同じ傾向であった。

表2 2017~2021年漁獲魚の平均年齢組成

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
年齢組成(%)	10.18	53.21	29.23	6.59	0.79

本報告は滋賀県資源管理協議会からの令和 4 年度調査委託事業の成果の一部である。

2022 年の回帰親魚は平均年齢 2.92 歳、平均体長 44.7cm であった(表 3)。2017 年から 2021 年までの平均年齢(2.49 歳)と平均体長(40.8 cm)に比べて 2022 年は若干高齢化、大型化した。この理由として 2022 年の 3 歳魚の割合が 2017 年から 2021 年における 3 歳の割合(表 4)より多かったためと考えられる。

表3 2022年回帰親魚の年齢組成と年齢別平均体長

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	全平均
年齢組成(%)	0.91	28.19	52.02	16.04	2.85	2.92歳
体長(cm)	32.5	40.4	45.3	49.3	52.9	44.7cm

表4 2017~2021年回帰親魚の平均年齢組成

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
年齢組成(%)	10.09	43.68	35.08	9.48	1.68

以上のように、年齢・体長組成のモニタリング結果から、ビワマス資源の 2022 年の年齢・体長組成には大きな変化はみられなかった。採捕量が 2019 年から 2022 年にかけて 3 年連続して 50 トンを超えていることと併せて、資源は安定していると思われる。